

1 六地藏寺の概要

所在地	水戸市六反田町
宗派	真言宗豊山派
山号 院号	俱胝山（ぐていさん）聖宝院（しょうほういん）
開基	大同2年（807）永享年間（1429～1441）中興
中興	宥覚（ゆうかく）
本尊	六躰の地藏菩薩（安産子育ての地藏として信仰をあつめる）

中世は大掾氏、江戸氏、佐竹氏の庇護を受けました。住持職は中興の宥覚、2世宥実と続き、3世恵範（えはん）は、特に学僧として名高く、仏教書を求めて四国・畿内にも赴きました。

六地藏寺文書によりますと、六地藏寺が灌頂の場として記録に明記されるのは、15世紀半ばである長禄2年（1458）です。つまり、このころまでに、六地藏寺は水戸地方の中心的真言宗寺院になっていたと思われます。

近世は江戸幕府より30石の朱印地を与えられました。水戸藩の庇護も受け、特に徳川光國は、貴重な仏教書を保護するため、法宝蔵を建てています。

2 灌頂の概要

灌頂→頂（頭）に水を灌（そそ）ぐ儀礼。この儀礼に拠って、灌頂を授かった者（受者）は、仏の教えを段階的に正しく理解できたことが証明されます。そして、大日如来から受者まで、法脈という縁で結ばれるのです。『大日経（だいにちきょう）』「秘密曼荼羅品（ひみつまんだらほん）」には、灌頂を授ける受者の根機（こんき＝そなわっている素質・能力）を、5段階に分けることが説かれています。

第1段階	遙見（ようけん）曼荼羅
第2段階	結縁（けちえん）灌頂 得度（とくど）・誓額（せいがん）・授戒（じゅかい）
第3段階	許可（こか）灌頂 四度加行（しどけぎょう） 〔（十八道行法（じゅうはちどうぎょうほう）、金剛界（こんごうかい）行法、胎藏界（たいざうかい）行法、護摩（ごま）行法〕
第4段階	伝法（でんぼう）灌頂
第5段階	秘密三昧耶（さんまや）